

まちづくりイベント考

～まちづくりにつながる興味深い取組み～

石田 富男

都市のデザインにおいては、そこを舞台として行われる活動もまた重要な要素である。その一つとしてまちづくりイベントをとりあげてみたい。大規模イベントがもてはやされた時代もあったが、今やその幻想はない。むしろ、地域の特性を活かし、地域の人々が主体となるまちづくりイベントが各地で行われるようになってきた。特に秋はまちづくりイベント真っ盛り。興味深い取組みがいっぱいだ。



岐阜シティ・タワー43のデッキで行われたビーンズフェスタ 2007。岐阜の特産が枝豆であることが名称の由来とか。(2007.10.6)

まちづくりイベントとは、「単なる一過性のイベントに終わる事なく、まちづくりの手段として活用されるイベント」と定義される。すでに、一九九六年に「まちづくりイベントハンドブック」という本が出版（学芸出版社）されており、ここでも様々なイベントが紹介されているが、最近はより草の根レベルのものも増え、まちづくりにおいても重要な位置を占めてきているように思う。それぞれが様々な仕掛けによって興味深い取り組みを展開しており、参考になるものも多い。限られた見聞の中ではあるが、私が興味深く感じている取組みを紹介してみたい。

人を集めるしかけ

「ぎふ信長まつり協賛事業」(岐阜市)

まちづくりイベントの目的に、他の地区からまちに来てもらい、まちの賑わいにつなげたいというのがある。しかし、小さな組織が集客力のある大規模なイベントを行うことは容易ではない。そのような中でぎふ信長まつり協賛事業は、二つの点で興味深い。

第一に伝統的なまつりとの連携である。本体のぎふ信長まつりは今年で51回を数え、火縄銃の実演や騎馬武者によるパレードが行われ多くの人々が賑わう。この日にあわせて、いろいろなまちづくり団体がイベントを行っている。ぎふ信長まつりの会場までの途中で行われることにより自然と人々の目につく、立ち寄



大浜てらまちウォーキングで総合学習の成果を発表する子ども達。地域住民と子ども達のふれあいの場ともなる。(2006.10.15)

ってみようかと思わせるのである。

第二に多様な団体との連携である。一つの団体では宣伝も限られてしまうが、協賛事業として宣伝してもらおうことでより多くの人の目につくことができる。第12回玉宮まつり、第7回美殿町秋祭などまちづくり組織主催のイベントも回数を数えている。若者が主体的に取り組みビーンズフェスタも三年前から協賛事業として開催されている。どんどん新しいイベントが増えていく感じだ。

多くの集客は確保できた。その人々にいかにまちの魅力を伝えていくか。次のステップがより重要になってくる。

まちを歩かせるしかけ

「大浜てらまちウォーキング」(碧南市)

まちづくりの第一歩はまちのことを知ることであり、そのための方法としてまち歩きがワークショップでもよく行われる。まちづくりイベントでもまちを歩かせるしかけとして、スタンプリーはよく行われるが、大浜てらまちウォーキングでは三つの興味深いしかけがある。

まず、第一に小学校の総合学習との連携である。地区内の社寺を舞台にそこで子どもたちが総合学習の成果を発表する。親たちは子どもの勇姿をみるために、舞台となる社寺を巡ることになる。

第二に食べ歩きである。様々な団体が時間を決めて、いろいろな場所でカニ汁やお汁粉、シジミ汁を無料提供する。食



揚輝荘の階段を使ったやまのて音楽祭でのコンサート。階段の下も上も観客が一杯。(2004.3.20)

べ物を求めてまちを歩いてしまう。

第三に街角フォトクイズである。写真の場所を当てるとくじで賞品がもらえる候補となる場所が示してあり、その場所に立てばどの写真かがわかる。今まで知らなかった面白そうな写真を見るとその場所を確かめたくくなって歩いてしまう。

このことをきっかけに参加者がまちの魅力が再発見し、それを活かしたまちづくりにつながる期待ができるのだ。

まちを魅せるしかけ

「やまのて音楽祭」(名古屋市中千種区)

まちには様々な魅力的な場所があるが、その魅力に気がつかないことも多い。普段とは違った姿を見せることによって、その魅力に気付いてもらおう。そんなしかけの好例としてやまのて音楽祭がある。

まちづくりイベントで音楽演奏が行われることは多いが、よくあるのは商店街などに特設ステージを設けるもの。それが、揚輝荘の階段や庭園、東山給水塔広場、城山八幡宮などが舞台となると、音楽だけではなく、空間そのものを味わうことができる。まちの魅力が肌で感じられるのだ。

このイベントは公募による実行委員会が主催している点も興味深い。もともとは千種区の特徴ある区づくり事業としてスタート。行政主導の取組みが市民からの発案で音楽をまちづくりに取り入れたことにより、幅広い世代の参加が得られ、

地域の人々の連帯感が強まっていったという。音楽ファンをまちづくりに取り込み、様々な協力関係が生み出されることで、豊かな広がりを見せている。地域の多様な人材を活かすことが豊かなまちづくりにつながるのだ。

地域の人々が楽しむしかけ

「ゆめランド祭り」(名古屋港区)

地域住民による地域住民のためのイベント。盆踊りなどその典型だが、自分達がワークショップで計画づくりに取り組み完成した公園を舞台に行われているゆめランド祭りは、みんなのアイデアが満載されたイベントである。

手づくりの遊びを基本に、これまでに紙ひこうき、模型飛行機、竹とんぼ、竹馬、スライムづくりなどを公園でやってきた。ストラックアウトなどの手づくり遊具が登場したり、大人と子どもが一緒に遊んで遊ぶゲームをしたり……。どれもが地域の人々のアイデアである。

お年寄りから子どもまでいろいろな人々が集い楽しむ。準備の段階から、ワイワイと楽しめるイベントは、地域の結束を高める格好の機会だ。

見聞していないまちづくりイベントも多く、この他にも興味深い取組みは多数あるだろう。いろいろな人の情報を集めて、この地域の事例をとりあげた新たなハンドブックができればと思う。



ゆめランド祭りで竹細工にとりくむ。竹の調達も住民自身の手で。大人も子どもも生き生きと動きまわる。(2005.3.20)